

サポート通信

平成23年11月18日 発行
広島市立広島特別支援学校

NO. 2

～ 特別支援教育センター校からの情報発信・ネットワーク ～

猛暑の夏が過ぎ、秋の深まりを感じる季節となりました。南区出島の本校移転先では、建設工事が順調に進められています。平成24年7月中には、完成し、8月に引越しを行い、9月から供用開始の予定です。施設・設備が整った日本一の学校となります。

さて、今年、7月21日からの7本の「夏期公開研修会」、8月2日から11日までの「夏期教育相談会」、そして、8月5日から8月25日までの間の「教材・教具展示会」を実施しましたところ、広島県内、広島市内から多くの先生方に御来校いただきました。誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

本校は、地域にある幼・小・中・高等学校等からの要請に応じて援助、支援に努めることを責務と考え、特別支援教育のセンター的機能の充実に取り組んでいます。今後の予定ですが、12月1日には、「公開授業研究会」を、12月28日には、「冬期教育相談会」を実施します。特に、公開授業研究会では、全学部の授業を公開するとともに、協議会、元愛媛大学教授の上岡一世先生の御講演、さらには教材・教具の展示も行います。幼・小・中・高等学校等の教職員の方々のニーズに応じることができるとお約束します。



また、教材・教具、備品等の貸し出しを常時行っていますので御利用ください。

夏期教育相談会を実施しました！

8月2日(火)から11日(木)まで、夏期教育相談会を実施しました。この取組は、本校の就学区域内の小・中学校・広島市内の高等学校の教職員を対象にしたもので、特別な教育的ニーズのある児童生徒への有効な支援につなげるために実施しました。相談件数は11件で、児童生徒の指導や支援に関わることが10件と最も多く、その他、個別の指導計画に関する事、個別の教育支援計画に関する事、福祉制度やサービスに関する事等がありました。相談に来られた教職員から、「こういった形の学習方法があるかなど参考になった。」「発想を変えて褒め、成功体験を積み重ねていくことが大切だと分かった。」「一人の子どもに対しての支援方法をたくさんの事例を出して教えていただけて良かった。」等、相談して良かったというたくさんの声を聞いています。教育相談会での実績を積み重ねることによって、他校の教職員のニーズを知るとともに、本校の教職員も標準検査の技術や分析力の向上を図るとともに指導法や専門性等、力量を高めて、より一層充実した相談会にしたいと考えています。

冬期教育相談会実施のお知らせ

冬期教育相談会を行います。詳しくは、各校に案内を12月1日に発送いたしますので、そちらか本校 Web ページを御覧いただき、申し込みをしていただければと思います。皆様からの御相談お待ちしております。

12月28日(水)

申し込み期間 12月5日(月)～12月19日(月)



公開授業研究会のお知らせ

本年度も公開授業研究会を開催いたします。小学部2年、5年は生活単元学習、中学部1～3年、高等部1・2年は作業学習の授業を公開し、その後研究協議を行います。元愛媛大学教授上岡一世先生による講演もあります。夏期休業中に開催し、好評だった教材・教具展示会も併せて行います。是非御参加ください！

12月1日(木)

申し込み受付中

専門家との連携による支援について紹介します！～OT編～

広島県では、特別支援教育ビジョン推進事業として障害の種別や程度に応じた専門的な指導の充実のため、特別支援学校に OT(作業療法士),PT(理学療法士),ST(言語聴覚士)を特別非常勤講師として配置しています。本校にも、OT と PT の先生方が数名ずつ勤務されています。本通信では2号にわたり、本校で勤務されている OT と PT の先生による支援の様子について紹介をしたいと思います。今回は、広島大学でも教鞭をとっておられる OT の宮口先生です。

広島大学大学院

保健学研究科 教授 宮口英樹



作業療法士は、その人にとって意味のある（作業）活動を見出し、その活動が発揮できるような環境作りを通じて人が健康であることができるように支援を行います。私は、作業療法士になってから 20 数年間が経ちますが、どんな人でも何もしないでいると身体的にも精神的にも、健康でなくなることを実感してきました。ですから、活動を行う場合に、少々姿勢に問題があったり、動作の方法が違うと感じたりしても、何かができることを第一優先にしたい想いで臨床に関わってきました。現在は、大学での教育の仕事が中心ですが、方針は変わりません。

先生方からの相談は、姿勢、書字や学習方法、集中力、体力、食事、コミュニケーションなど多岐に渡ります。そして、どんな先生に対しても共通して感じるのは、少しでも子どもたちに成長してほしいという想いです。相談の内容を思い起こすと最近の記憶が自然に出てきてしまうので、総じて重要だと考えている視点として、コミュニケーションと脳の栄養の 2 点について取り上げたいと思います。

言うまでもなく、コミュニケーションは人の相互情報の伝達です。そして、言葉を情報手段として用いることは理想的です。しかしながら、現実には言葉や文字を使つての伝達は、特別支援学校では、語彙力の問題もあってなかなか難しい場合があります。ここで、言葉を用いたコミュニケーションを求めると、相手に伝わらなかったという想いのみが残るかもしれません。そこで、先生方には、コミュニケーション方法の一つとして擬音語、擬態語の応用を提案させていただいています。例えば、動きが不器用で、力の入れ方がよく分かっていないようだという相談が少なくありませんが、「強く（弱く）力を入れて」という前に、手を握るときに「ぎゅっと。」「きゅっと。」と言葉に出して、コミュニケーションを取ってみてはいかがでしょうか。そうすると、擬態語だけで他の身体の部位の動きを表現する場面や、粘土で力の調節が必要な場面などで会話と途切れささないでコミュニケーションが可能になるかもしれません。

もう一点、脳の栄養とは、成功体験の積み重ねによる脳の底力を向上させることです。もちろんできないことができるようになることは大切で周囲も注目しやすいことですが、できることをよりできるようにして、脳全体の基礎体力を底上げしたいということです。例えば、右手よりも左手を使う傾向が強い場合、どうしても右手を使ってもらいたいと考えるのは、自然のことです。しかし、左手での動作が得意な子どもであれば、学習効率も左手を使用した方が有効です。左手の機能が向上すれば、脳の可塑性によりその領域はどんどん変化していきます。脳は、神経ネットワークで対側の脳と連絡していますから、そのようにして脳全体の発達を期待したいと考えています。失敗しない介入をエラーレス介入といいますが、成功体験は、脳の特に前頭葉の発達に栄養となります。

今後、必要だと感じているのは、様々な支援機器を紹介したり、試す機会を作る、或いは工夫や改良したりすることで、より子どもたちに適した環境作りを提供することです。また、事例を通じて介入の成果を検証したいと考えています。このような具体的支援や評価の視点などを通じて、作業療法士を知っていただき、どんどんと活用してもらえると嬉しく思います。

発行：広島市立広島特別支援学校

〒730-0051 広島市中区大手町四丁目 4 番 4 号

TEL (082) 245-0304 FAX (082) 245-0349

担当 特別支援教育コーディネーター 草羽 俊之・石橋 敦

E-mail yougo-s@e.city.hiroshima.jp

